

日本災害情報学会 20 周年記念シンポジウムで基調講演しました(2019/05/11)

テーマ：災害情報

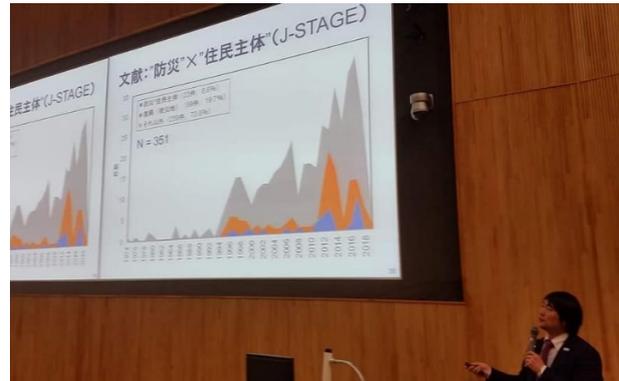
場所：東京大学福武ホール（東京都文京区）

5月11日(土)、東京大学福武ホールを会場にして、日本災害情報学会 20 周年記念シンポジウム「防災における“住民の主体性”」が開催されました（主催：日本災害情報学会）。2018 年 12 月に中央防災会議によって、災害時における公助の限界と「住民の主体性」の重要性とそれを支援するという方向性が示されました。日本災害情報学会では、これを受けて「防災における“住民の主体性”」をテーマに取り上げ、多様な視点から、情報を共有し、議論する場として 20 周年記念シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは 6 名の基調講演と登壇者によるパネルディスカッションが行われました。登壇者は、実務者、マスコミ、研究者の若い学会員（40 周年に向かう次の 20 年においても現役で活躍が期待される年齢層）が選ばれ、当研究所の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が「防災における住民の主体性を『311 前後の東北』で考える」という題目で基調講演を行なったほか、後半のパネルディスカッションに登壇しました。佐藤翔輔准教授からは、東日本大震災における主体的な避難の事例とその背景にあるもの、被災後の地域における主体的な防災の事例とその原因に関する考察について講演がありました。

会場には、休日にも関わらず、定員 184 名を超えるほどの立ち見が出るほど、多くの方にお越しいただき、大変盛会となりました。



会場の様子



基調講演の様子



シンポジウムのポスター

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）
 写真一部提供：徳島大学・井若和久氏